

国内におけるスノーボードの発展過程に関する研究
堀田 晃平 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 新井 博

キーワード：スノーボード，発展過程，意識調査

1. 緒言

近年，国内外問わずウィンタースポーツにおいてスノーボードが注目を浴びている。それに伴い，今では男女を問わず子どもから大人まで楽しめるスポーツとして競技人口が増加し，特に若者に焦点を絞れば非常に多くの者が一度は経験したことがあるだろう。私自身にとっても，約10年間冬の楽しみとなっている。しかしながら，なぜこれほどまでにスノーボードが発展し，1つのブームとなっているのかを知る者は少ないだろう。そのことから，どのような経緯で国内においてスノーボードが発展し，人々に受け入れられたのか理由を明らかにしてみたい。そこで本研究では，スノーボードにおける発展過程を項目別に考察・分析することで国内での人気上昇の要因を探る。また，実際のスノーボード経験者へのアンケート調査により，スノーボードの現状，スノーボーダーのニーズなどの情報を得ることで，今後のスノーボードにおける将来性の予測をすることを目的とする。

2. 研究方法

先の目的を解明するために，以下の①文献調査と②アンケート調査の2つの方法をとる。

①各種文献資料の観点別調査

②アンケート調査

最終的に，両調査の結果と考察から現在までの発展要因を見つけ出し，今後の発展への課題と解決策を見出す。

3. 結果と考察

本研究のテーマである発展過程の結論

としては，スノーボードは誕生から今まで，独自の新しいウィンタースポーツとしての文化を確立してきた。そこにはスノーボーダーによる様々なニーズと，それに答える企業，取りまとめる協会など多くのスノーボードを楽しみたいと思う者たちの思いと努力の結果が詰まっている。偶然日本の若者たちに受け入れられたことでその楽しみに魅了され発展したと考えることもできるが，この発展は偶然ではなく必然的に様々なことが重なり合ったことであると考えられる。

4. まとめ

本研究をまとめるならば，スノーボーダーや企業・協会，それを取り巻く環境が上手く共存できているということでは無いだろうか。今後も発展のカギはそこにあると考える。しかし，スノーボード自体まだまだ歴史の浅いスポーツであるため，課題とされることは多くある。その課題を克服していくためにも，今まで以上にスノーボード業界の体制作りを重視する必要がある。私自身スノーボーダーとして，スノーボードの魅力をより多く発信し，常に人々を魅了するスポーツであってほしいと願う。

引用・参考文献

- (1)日本スノーボード協会(2008年) JSBA スノーボード教程 山と溪谷社
- (2)財団法人全日本スキー連盟(2009年) SAJ スノーボード教程 SANUK スキージャーナル